

第 IV 章

教育目標の達成度と教育の効果

第Ⅳ章 教育目標の達成度と教育の効果

第1節 単位認定について

1. 単位認定の概要

本学における、単位認定についての概要と表彰制度を①～⑤に示し、⑥に今後改善・改革を必要とする問題点を示す。第Ⅱ章第1節2. 音楽科の教育課程にて示した卒業要件単位数の専攻別内訳を図表36に示す。また図表37に単位算定基準一覧表を示すとともに、図表38には、下記②の項目に関連する単位認定の状況表（2004年度）を示す。

① 卒業に要する単位数

本学卒業に必要な単位数は最低2年以上在籍し、以下の4つの種別（図表36）を含む62単位と定められている。また1授業における単位数は、講義科目2単位、演習科目1単位、専門実技3単位が基本となっている。この62単位には、教職に関する科目の中で本学が指定する科目を合計6単位まで含めることができる。なお、教育職員免許状を取得しようとする場合は、各学科所定の単位とともに別に定める教職に関する科目及び教科に関する科目その他指定された科目を修めることを要する。

図表36に2004年度の専攻別の卒業要件単位数の内訳を一覧表として示す。この図表に示される最低単位数の合計は、いずれの専攻においても合計45単位となっている。卒業要件単位数は、第Ⅱ章第1節2. 音楽科の教育課程に示されるように、合計62単位以上が必要となっており、残り17単位以上は学生自身が学修したい分野から選択して履修する。

図表36 専攻別の卒業要件単位数（2004年度）

科目種別		作曲専攻	声楽専攻	器楽専攻			
				ピアノ	管弦打	箏	
一般教育科目	日 本 語 表 現 I	2 単位					
	日本語表現 I 以外	2 単位以上					
外 国 語 科 目		2 単位以上					
保 健 体 育 科 目		1 単位以上					
専 門 教 育 科 目	各 専 攻 別	26 単位	26 単位	24 単位	14 単位	34 単位	
	合 奏 等 選 択 必 修	－	－	－	4単位以上	－	
	音楽基礎科目	ソ ル フ ェ ー ジ ュ	2 単位以上				4 単位以上
		音 楽 理 論	－	2 単位以上			
		音 楽 史 (世界と日本の音楽を考える)	2 単位				
		音 楽 史	2 単位以上				
	各専攻共通専門教育科目		6 単位以上	4単位以上	6 単位以上	12 単位以上	

科目種別		ジャズ・ポピュラー専攻					
		ジャズ・コース	ポピュラー・コース		ミュージカル・コース	電子オルガン・コース	
			ヴォーカル	インストルメント			
一般教育科目	日 本 語 表 現 I	2 単位					
	日 本 語 表 現 I 以 外	2 単位以上					
外 国 語 科 目		2 単位以上					
保 健 体 育 科 目		1 単位以上					
専 門 教 育 科 目	各 専 攻 別	20 単位	24 単位	22 単位	16 単位	18 単位	
	音 楽 基 礎 科 目	ソ ル フ ェ ー ジ ュ	2 単位以上				
		音 楽 理 論	2 単位以上				
		音 楽 史 (世界と日本の音楽を考える)	2 単位				
		音 楽 史	12 単位以上	8 単位以上	10 単位以上	16 単位以上	14 単位以上
	各専攻共通専門教育科目						

② 単位の認定（取得状況）

単位の認定方法及び、各科目の評価方法等は以下の通りであるが、学生便覧、講義概要によって学生に周知している。

(a) 単位算定基準

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業により教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、図表37の基準により単位数を計算している。

図表37 単位算定基準一覧表

講義	義	15時間の授業をもって1単位とする。
演習	習	30時間の授業をもって1単位とする。
実験・実習及び実技		45時間の授業をもって1単位とする。
個人指導による音楽実技		5時間の授業をもって1単位とする。

- ・科目において、授業時間外に必要な学習の量及びその教育効果を測り1単位相当の授業時数を別に定めることがある。この場合、演習については15時間から30時間の範囲の授業時間をもって1単位とする。
- ・卒業研究・卒業作品・卒業演奏等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修の内容を考慮して、単位を定める。

(b) 単位の取得状況

図表38に2004年度の単位認定状況表を示す。

単位認定の方法、評価の現状については、一部の科目群を除いては担当教員による絶対評価が行われ、科目間、教員間に相当の差異がある。それらを検討すべく2005年

度中に「成績評価システム・プロジェクト」を立ち上げ、2006 年度実施に向けて担当科目や専門分野を超えて議論を重ねる予定である。また、図表 38 は実技科目等一部科目を除く。一部の科目は（例、A/B）は前後期別科目を合計したものを記載している。

図表 38 単位認定の状況表（2004 年度）（講義・演習）

授業科目名	授業形態	評価方法	履修	単位修得状況	
			人員	人数	%
日本語表現Ⅰ	講義	単元毎の小テストと期末試験	388	280	72.16
文学 A/B	講義	期末の筆記試験と出席状況	158	109	68.99
哲学 A/B	講義	講義ノートの毎回提出とレポートなど	102	54	52.94
美学・芸術学 A/B	講義	授業内試験	82	61	74.39
日本国憲法 A/B	講義	毎回の小テストと期末試験	212	171	80.66
西洋史 A/B	講義	出席点、小レポート、期末試験	145	105	72.41
心理学 A/B	講義	出席点、小レポート、期末試験	442	367	83.03
音響学 A/B	講義	授業内課題と期末試験	130	65	50.00
日本語表現ⅡA/B	講義	平常点と授業内試験	117	84	71.79
現代のキーワード（現代芸術）	講義	期末試験	21	11	52.38
現代のキーワード（現代史）	講義	授業内小論文、期末試験	13	8	61.54
音声生理学Ⅰ／Ⅱ	講義	期末試験	58	52	89.66
英語Ⅰa/b	演習	出席点、平常点、小テスト、期末試験他	424	373	87.97
英語Ⅱa/b	演習	出席点、平常点、小テスト、期末試験他	300	252	84.00
英語Ⅲa/b	演習	出席点、平常点、小テスト、期末試験他	38	21	55.26
英語Ⅳa/b	演習	平常点、会話試験	11	10	90.91
ドイツ語Ⅰa/b	演習	小テスト、期末試験	108	68	62.96
ドイツ語Ⅱa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	55	43	78.18
ドイツ語Ⅲa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	2	0	0.00
ドイツ語Ⅳa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	0	0	0.00
フランス語Ⅰa/b	演習	出席点、授業内試験	44	39	88.64
フランス語Ⅱa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	29	24	82.76
フランス語Ⅲa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	2	2	100
フランス語Ⅳa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	0	0	0
イタリア語Ⅰa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	159	128	80.50
イタリア語Ⅱa/b	演習	出席点、平常点、期末試験	116	88	75.86
イタリア語Ⅲa/b	演習	出席点、小テスト、期末試験	11	7	63.64
イタリア語Ⅳa/b	演習	出席点、小テスト、期末試験	7	6	85.71
体育 A/B	講実	出席点、平常点、レポート	546	472	86.45
音楽基礎（ソルフェージュⅠ・音楽理論Ⅰ）	演習	出席点	326	300	92.02
ソルフェージュⅡ	演習	出席点、平常点、共通テスト	189	145	76.72
ソルフェージュⅢ	演習	出席点、平常点、共通テスト	246	214	86.99
ソルフェージュⅣ	演習	出席点、平常点、共通テスト	248	213	85.89
ソルフェージュⅤ	演習	出席点、平常点、共通テスト	159	127	79.87

ソルフェージュⅥ	演習	出席点、平常点、共通テスト	101	98	97.03
音楽史（世界と日本の音楽を考える）	講義	期末試験、授業内小テスト	327	275	84.10
音楽史（中世・ルネサンス）	講義	授業内小レポート、期末試験	24	19	79.17
音楽史（バロック・古典派）	講義	期末試験、（平常点、出席点）	160	114	71.25
音楽史（ロマン派）	講義	出席点、レポート	177	150	84.75
音楽史（20世紀）	講義	出席点、レポート	76	61	80.26
音楽史（日本伝統音楽）	講義	出席点、イベントレポート、期末試験	45	32	71.11
音楽史（諸民族）	講義	出席点、平常点、レポート	23	19	82.61
音楽史（ジャズ）	講義	最終授業内の小論文	52	38	73.08
音楽史（ポピュラー）	講義	最終授業内の小論文	99	49	49.49
音楽理論Ⅱ	演習	期末試験、（平常点、出席点）	307	263	85.67
音楽理論Ⅲ	演習	期末試験、（平常点、出席点）	275	240	87.27
音楽理論Ⅳ	演習	期末試験、（平常点、出席点）	238	214	89.92
音楽理論Ⅴ	演習	期末試験、（平常点、出席点）	105	94	89.52
音楽理論Ⅵ	演習	期末試験、（平常点、出席点）	14	11	78.57
副科鍵盤楽器演習Ⅰ－Ⅳ	演習	出席点、平常点、実技試験	172	148	86.05
卒業作品（C）		提出作品審査	7	7	100
卒業演奏（V/P/O/K）		実技試験	200	196	98.00
作曲基礎講座Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、レポート	32	30	93.75
作曲専門ソルフェージュⅠ／Ⅱ	演習	最終授業内試験（実技含む）	19	17	89.47
管弦楽法Ⅰ・基礎／Ⅱ・応用	演習	出席点、平常点、レポート	14	13	92.86
声楽基礎講座Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	123	121	98.37
歌曲発語演習Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、授業内試験	24	22	91.67
日本名曲講座	演習	出席点、平常点、歌唱試験	26	25	96.15
世界名曲講座	演習	出席点、平常点、歌唱試験	19	18	94.74
ヴォーカル・アンサンブルA/B	演習	演奏試験とレポート	73	71	97.26
ピアノ・アンサンブルⅠ／Ⅱ	演習	受講態度、出席点、授業内試験	85	83	97.65
ピアノ基礎講座Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、授業内試験	417	411	98.56
ピアノ教授法A/B	講義	出席点、レポート	182	179	98.35
合奏AⅠ－Ⅳ	演習	出席点、平常点、（演奏能力）	432	422	97.69
吹奏楽Ⅰ－Ⅳ	演習	出席点、平常点	372	360	96.77
オーケストラⅠ－Ⅳ	演習	出席点、平常点	100	98	98.00
室内楽Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	23	21	91.30
楽器構造論Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点	45	36	80.00
管弦打編曲法Ⅰ／Ⅱ	講義	出席点、平常点、編曲作品提出	52	49	94.23
箏歌Ⅰ／Ⅱ	演習	実技試験	4	4	100
箏基礎講座Ⅱ	講義	レポート	2	2	100
箏曲概論	講義	平常ミニレポート、期末レポート	2	2	100
箏合奏Ⅰ／Ⅱ	演習	実技試験	4	4	100
学外研修Ⅰ／Ⅱ	実習	レポート	2	2	100

合唱Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	675	633	93.78
副科声楽Ⅰ	演習	出席点、実技試験	114	109	95.61
副科声楽ⅡA	演習	出席点、実技試験	30	28	93.33
作曲法Ⅰ	演習	鍵盤和声試験（平常点、出席点）	270	256	94.81
作曲法Ⅱ	演習	期末試験、作品提出、（平常点、出席点）	275	255	92.73
作曲法Ⅲ／Ⅳ（JP）	演習	出席点、平常点、授業内試験	142	132	92.96
指揮法Ⅰ	講義	出席点	205	194	94.63
指揮法Ⅱ	演習	出席点	32	31	96.88
指揮法Ⅲ	演習	出席点、実技試験	29	29	100
合奏BⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	298	284	95.30
合奏DⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	110	80	72.73
合奏FⅠ／Ⅱ	演習	出席点	70	58	82.86
邦楽合奏Ⅰ／Ⅱ（胡弓、三絃、尺八、箏）	演習	出席点、平常点	316	296	93.67
コンピューター演習	演習	授業最終日の試験、授業内課題	270	224	82.96
デスクトップ・ミュージック演習Ⅰ／Ⅱ	演習	制作データ、平常点、出席点	88	65	73.86
デスクトップ・ミュージック演習Ⅲ／Ⅳ	演習	制作データ、平常点、出席点	12	10	83.33
ピアノ構造論Ⅰ／Ⅱ	講義	期末試験、出席点	276	243	88.04
リズムソルフェージュⅠ／Ⅱ	演習	授業内試験、平常点、出席点	92	78	84.78
視奏A/B	演習	授業内試験、平常点、出席点	110	81	73.64
視奏CⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、期末試験	30	27	90.00
音楽探検	演習	出席点、平常点、レポート	57	38	66.67
音楽療法Ⅰ／Ⅱ	講義	出席点、レポート、期末試験	434	399	91.94
電子オルガンⅠ／Ⅱ	演習	授業内試験、出席点	118	102	86.44
電子オルガンⅢ／Ⅳ	演習	出席点、平常点	5	3	60.00
童謡・唱歌講座A/B	演習	出席点、平常点、レポート	166	142	85.54
副科ジャズ・ポピュラー演習Ⅰ	演習	出席点、平常点	41	32	78.05
インターンシップ特別実習	実習	レポートその他別に定める見本による	10	10	100
社会活動特別実習	実習	レポートその他別に定める見本による	1	1	100
ミュージカルテーマ研究Ⅰa／Ⅰb	実演	出席点、平常点、実技試験	52	52	100
ミュージカルテーマ研究・BⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、実技試験	33	33	100
ミュージカル唱法Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、授業内試験	26	26	100
モダンダンスA-D	演習	出席点	51	51	100
レパートリー唱法Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、実技試験	28	28	100
ジャズ・ダンスAⅠ－BⅡ	演習	平常点、実技	54	54	100
バレエAⅠ／AⅡ／B/C	演習	平常点、実技	51	51	100
日本の歌C/D	演習	出席点、平常点、レポート	2	2	100
声楽テーマ研究・Ⅰa／Ⅰb（ポピュラー）	演習	出席点、平常点、筆記試験	172	168	97.67
声楽テーマ研究・BⅠ／BⅡ	実演	出席点、平常点、授業内レポート、実技	142	138	97.18
器楽テーマ研究・Ⅰa／Ⅰb	実演	出席点、平常点、試験	214	205	95.79
器楽テーマ研究・AⅠ／AⅡ（ピアノ）	演習	出席点、平常点、レポート	4	4	100
器楽テーマ研究・CⅠ－DⅡ	実演	出席点、平常点、実技試験	389	385	98.97
ポピュラー・ヴォーカル・アンサンブルⅠ－Ⅳ	演習	授業内試験、平常点	152	150	98.68

ポピュラー音楽演習Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	66	66	100
ピアノ指導法 A/B	演習	出席点、レポート	57	51	89.47
ポピュラー・コード演習Ⅰa／Ⅰb	演習	出席点、平常点、授業内試験	3	3	100
ポピュラー・ピアノ演奏法Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、授業内発表会	42	33	78.57
ポピュラーコード演習Ⅱ／Ⅲ	演習	出席点、平常点、授業内試験	30	29	96.67
電子0g・アンサンブル演習 A-D	演習	出席点、平常点	72	65	90.28
管打アンサンブルⅠ－Ⅲ	演習	出席点、平常点	14	14	100
キーボード・アンサンブルⅠ／Ⅱ	演習	平常点	32	24	75.00
ベーシック・キーボードⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、授業内試験	48	41	85.42
ベーシック・キーボード演習 AⅠ／AⅡ	演習	出席点、平常点、授業内試験	16	11	68.75
キーボード演習Ⅰ／Ⅱ	演習	最終授業での実技試験	55	40	72.73
ギター・アンサンブルⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、実技試験	6	5	83.33
ギター指導法Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、試験	6	5	83.33
電子音響機器演習Ⅰ／Ⅱ	演習	授業内試験	52	41	78.85
デスクトップ・ミュージック AⅠ－BⅡ	演習	出席点、平常点、作成データ	79	69	87.34
MIDI システム・テクノロジー AⅠ／AⅡ	演習	出席点、平常点、作成評価	122	120	98.36
ジャズ・ポピュラー・アンサンブルⅠ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	94	82	87.23
ジャズ・ポピュラー・リズム演習Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点	52	47	90.38
ジャズ・ポピュラー音楽講座Ⅰ／Ⅱ	講義	出席点、授業内筆記試験	84	71	84.52
ステージ総合表現 A/B	演習	出席点、平常点、他	43	33	76.74
ポピュラー音楽基礎講座Ⅰ／Ⅱ	講義	出席点、筆記試験	52	45	86.54
マーチング指導法	演習	出席点、平常点	7	6	85.71
音楽指導法（ピアノ）Ⅱ／Ⅲ	演習	出席点、平常点、授業内試験	15	14	93.33
音楽指導法（電子オルガン）Ⅰ／Ⅱ	演習	出席点、平常点、授業内試験	31	31	100
楽器構造演習（ジャズ）	演習	出席点	3	2	66.67
教職入門セミナーⅠ／Ⅱ	講義	出席点、レポート	184	163	88.59
教育学概論	講義	期末試験	123	98	79.67
教育心理学	講義	試験	109	96	88.07
特・教育心理学	講義	出席点、授業内試験またはレポート	10	7	70.00
青年心理学	講義	出席点、試験	16	11	68.75
音楽科指導法	講義	出席点、指導案、期末試験	97	91	93.81
音楽科教材研究 A/B	講義	出席点、平常点、模擬授業等	70	58	82.86
特別活動の研究	講義	出席点、レポート	97	95	97.94
生徒指導論Ⅰ／Ⅱ	講義	出席点、平常点、試験	209	179	85.65
教育実習	実習	実習校の評価、実習記録、他	96	94	97.92
教育実習の研究	講義	出席点、レポート	97	95	97.94
教育方法論	講義	出席点、レポート、作品発表、等	87	77	88.51
道德教育論	講義	出席点、平常点、試験	112	92	82.14
総合演習	実習	出席点、クラス活動状況	107	96	89.72
教育学特論	講義	出席点、平常点	5	4	80.00
同和教育論	講義	出席点、授業内発表点	7	4	57.14

③ 単位の授与

授業科目を履修した学生に対し、試験の上、単位を与えるものとする。ただし、卒業研究・卒業作品・卒業演奏等の授業科目については、別に定める方法により学修の成果を評価して単位を与える。

④ 学習の評価

学習の評価は、試験及び平常の成績によって行い、秀 (A)・優 (B)・良 (C)・可 (D)・不可 (E) をもってあらわし、可 (D) 以上を合格とする。

成績の評価及び単位の認定については科目によって〈一般教育・外国語・保健体育科目・音楽基礎科目・専門教育科目・教職科目〉それぞれの科目の性格に応じて試験、レポート、平常成績などの最も適切であると考えられる方法を採用している。すべての科目は共通して単に能力、技術のみを評価の対象とするのではなく、学生の学習意欲や取り組み、積極性、平常授業における理解度などを小テストや小論文などで総合的に評価し、これらによって授業への出席状況や平常点にも重きを置き評価している。

⑤ 卒業時の表彰制度

本学では、第Ⅴ章第3節5. 学生への経済的支援にて報告するように、優れた学業成果を賞する奨学制度が整備されている。奨学制度に関する問い合わせ・相談は学務センターが行なっている。

奨学制度には「短期学外研修（海外または国内）」、「音楽社会活動賞」、卒業時の「短期大学部優秀賞」がある。「短期大学部優秀賞」は、在学中特に実技成績（音楽学専攻の場合は「音楽学演習」）が優秀な学生の中から学内の委員会により選考され、卒業式において学長より表彰状及び記念品が授与される。このことは在学中の学生にとって大きな目標の一つとなっており、学生の学習意欲の向上に繋がっている。

⑥ 今後改善・改革を必要とする問題点

大阪音楽大学短期大学部学則第37条により、適切な基準により単位の認定を行うべく成績評価の方法を決定しているが、評価の方法、条件等の決定はその授業担当者＝シラバス作成者に委ねられており、同じ内容を扱う授業においても、担当者が異なる場合、その評価方法に差異もある。

本学の受講登録システムではA群科目（大学が受講曜時限を指定：学生本人の選択する外国語や音楽基礎科目）についてB群科目（学生が専攻する実技の個人レッスン：学生と担当教員との日程調整によって受講曜時限を決定）の時間割を決定する。その後、C群科目（学生の選択によって受講する。教職科目を含む）を登録するが、これらC群科目がその学生個人のA、B群の履修状況（時間割）による制約を受け、あるいは受講定員の制限によってその学生の当初の受講計画とは異なった授業（あるいは同種の科目であっても担当者が異なる）を受講することになる場合、その学生が希望する科目の履修ができない例も少なからず存在する。この点について学生の側から見て評価基準や方法の差異によって生じる不公平の有無および、その評価の客観的な妥当性について精査点検する必要がある。学生の進度に合わせてカリキュラム、シラバスが組まれる個人レッスンの場合とは違い、講義や演習では同種の科目について本学の大局的な教育理念に照らし、共通の評価基準、評

価方法を検討するなど組織的な取り組みが必要であると言える。

現在、単位認定率の検証を行い、成績評価の厳密化と評価システムの公正明確化を図るべく 2005 年度にプロジェクトを立ち上げる予定である。

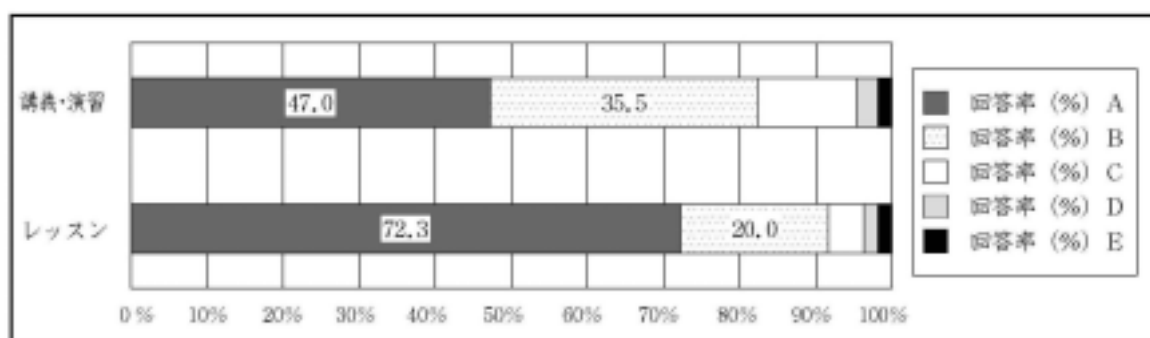
2. 学生の授業満足度

学生の授業満足度調査については、第Ⅱ章第3節1. 授業アンケートの実施概要にてその実施状況を報告した。ここでは各専攻、共通科目についての調査結果の概略と、長所と問題点、改善・改革について報告する。学生による授業評価アンケートの総合的満足度は総じて高く、特にレッスンについての学生による満足度は十分といえる。図表 39 には、2004 年 12 月から 2005 年 1 月にかけて実施された「学生及び教員による授業評価アンケート」において得られた学生からの回答結果を示す。詳細は、2005 年 4 月に学内公表された冊子にて教職員及び学生に報告を行った。ここではアンケート最終選択設問（設問 23：総合的に判断して、この授業は満足できましたか。）である学生による授業に対する総合的満足度を示す。

図表 39 学生による授業に対する総合的満足度

授業形態区分	平均値	回答率 (%)					ノーマーク・無効数	有効回答枚数	回答枚数
		A	B	C	D	E			
講義・演習	4.2	47.0	35.5	12.7	3.3	1.5	79	4083	4162
レッスン	4.6	72.3	20.0	5.0	1.8	1.0	10	401	411

回答記号
 A：強く思う（平均値計算値：5） D：そうは思わない（平均値計算値：2）
 B：そう思う（平均値計算値：4） E：強くそう思わない（平均値計算値：1）
 C：どちらともいえない（平均値計算値：3）



対象授業：2004 年度第 2 セメスター・第 4 セメスター開講の講義・演習、レッスン

3. 授業に対する満足度についての受け止め

① 担当教員による授業終了後の学生の満足度への配慮

多くの担当教員が授業終了後の学生の満足度に関心を持っていることは、学生による授業評価アンケートへの関心の高さからうかがうことは出来る。ただ、個人レッスンを主体

にした教育システムが、通常の集団授業主体の教育システムとは異なる個対個の関係を作ってしまう側面をもっている。このことが、アンケートの客観性を不確かなものにしてしまうことも考えられる。これは授業評価アンケートがシステムとして定着すれば解決する問題であろうと思われる。

② 短期大学部全体の授業に対する満足度についての受け止め

音楽単科でかつ大学併設の短大であるということから、学生は専門実技の授業（レッスン）の充実度に極めて大きな関心と期待を寄せている。ほぼ全員入学に近い状況がすぐそこまで来ており、専門的能力（特に基礎的知識や技能）に問題のある学生が入学してきている一方、経済的事情や、他大学卒業後、音楽の専門能力を磨こうと入学してきた者など、学生の範疇が絞れない状況にきている。このような意識・能力・志向の多様な学生群にどう対峙するかを随時検討する必要がある。専門以外にかかわる教養教育についても本学では力を注いでおり、学生にとって有意義になるよう教育を行っている。

音楽教育に限らず、高等教育機関としての短期大学の意味を鑑みるに、学生に対して人間形成において必要な教育を如何に有益なものと認識させるか、学生の興味の内に如何に修得させるか、即ち本学の目標とするところに如何にして学生たちを導くかについて各種プロジェクトや、委員会等で活発に議論を交わし、研究を続けている。

第2節 退学、休学、留年等の状況

1. 退学、休学、留年等の状況

図表 40 に学生異動等一覧表（2002～2004 年度）を示す。

図表 40 学生異動等一覧表（2002～2004 年度）

入学者数

		2002 年度	2003 年度	2004 年度
音 楽 科	作曲専攻	9	7	9
	声楽専攻	57	36	28
	器楽専攻	185	176	160
	音楽専攻	166	137	—
	JP 専攻	—	—	115
計		417	356	312

JP：ジャズ・ポピュラー（以下同様）

在籍者数（＝5月1日現在）

		2002 年度		2003 年度		2004 年度	
		1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年
音 楽 科	作曲専攻	9	8	7	10	9	8
	声楽専攻	57	69	37	58	29	37
	器楽専攻	187	194	181	184	162	181
	音楽専攻	169	177	139	169	—	167
	J P 専攻	—	—	—	—	115	—
計		422	448	364	421	315	393

休学者数

		2002 年度		2003 年度		2004 年度	
		1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年
音 楽 科	作曲専攻	0	0	0	2	1	0
	声楽専攻	2	5	2	0	1	0
	器楽専攻	1	2	8	2	8	3
	音楽専攻	4	6	5	12	1	14
	J P 専攻	—	—	—	—	6	—
計		7	13	15	16	17	17

退学者数

		2002 年度		2003 年度		2004 年度	
		1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年
音 楽 科	作曲専攻	0	0	0	0	0	0
	声楽専攻	5	2	2	3	2	1
	器楽専攻	6	4	9	3	9	2
	音楽専攻	10	9	7	5	0	7
	J P 専攻	—	—	—	—	13	—
計		21	15	18	11	24	10

卒業者数

		2002 年度		2003 年度		2004 年度	
		2002 年 9 月卒	2003 年 3 月卒	2003 年 9 月卒	2004 年 3 月卒	2004 年 9 月卒	2005 年 3 月卒
音 楽 科	作曲専攻	0	7	0	9	0	6
	声楽専攻	0	59	2	48	1	35
	器楽専攻	4	175	3	165	7	163
	音楽専攻	6	146	4	121	14	122
	J P 専攻	—	—	—	—	—	—
計		10	387	9	343	22	326

2. 退学者の退学理由割合、退学理由（最近の傾向）、退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状

図表 41 に、短期大学部事情別退学件数一覧（2002～2004 年度）を示す。また図表 42 に退学理由割合を示す。

退学後、満 2 ヶ年以内に再入学を希望するときは、教授会の承認を得たうえで許可する。

－ 休学者・留年者に対するケア －

休学者：休学に至るまでの学生相談を行う。

復学時に履修等に係る特別ガイダンスを実施する。

留年者：履修等に係る特別ガイダンスを実施する。

卒業要件科目の優先的履修登録を行う。

図表 41 短期大学部事情別退学件数一覧（2002～2004 年度）

学 年	専 攻		2002 年度								2003 年度								専 攻	2004 年度								
			経済的 理由	一 身 上 の 理 由	家 庭 の 事 情	進 路 変 更	病 気	留 学	そ の 他	計	経済的 理由	一 身 上 の 理 由	家 庭 の 事 情	進 路 変 更	病 気	留 学	そ の 他	計		経済的 理由	一 身 上 の 理 由	家 庭 の 事 情	進 路 変 更	病 気	留 学	そ の 他	計	
1	作 曲								0								0	作 曲										0
	声 楽			1		3		1		5	1	1					2	声 楽			1					1		2
	器 楽	器楽合計	1	3	0	2	0	0	0	6	1	5	0	3	0	0	0	9	器 楽	器楽合計	0	3	0	3	3	0	0	9
		ピアノ	1	2		1				4		2					2	ピアノ			1			2			3	
		管弦打		1		1				2	1	2		3			6	管弦打			2		3	1			6	
		邦 楽								0		1					1	邦 楽									0	
	音 楽 専 攻	音楽専攻合計	1	4	0	3	0	0	2	10	1	1	1	4	0	0	0	7	音楽専攻									0
		ミュージカル		1						1	1			3			4	J P	JP 合計	1	5	0	7	0	0	0	13	
		ポピュラー				2				2			1			1	ジャズ			1		1				2		
		声楽							1	1						0	ポピュラー		1	2		5				8		
		ピアノ		1						1						0	ミュージカル			1						1		
		電子オルガン				1			1	2						0	電子オルガン			1		1				2		
		吹奏楽								0							0	1 年次計		1	9	0	10	3	1	0	24	
		ジャズ	1	2						3		1		1			2											
		ギター								0							0											
	1 年次計			2	8	0	8	0	1	2	21	3	7	1	7	0	0	0	18									
2	作 曲								0								0	作 曲									0	
	声 楽			2					2		3						3	声 楽							1		1	
	器 楽	器楽合計	1	3	0	0	0	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0	3	器 楽	器楽合計	0	1	0	1	0	0	0	2
		ピアノ	1	1						2		1					1	ピアノ			1		1				2	
		管弦打		2						2		1	1				2	管弦打									0	
		邦 楽								0							0	邦 楽									0	
	音 楽 専 攻	音楽専攻合計	0	7	0	2	0	0	0	9	3	0	0	2	0	0	0	5	音 楽 専 攻	音楽専攻合計	2	3	2	0	0	0	0	7
		ミュージカル								0				1			1	ミュージカル				1					1	
		ポピュラー				1				1	1						1	ポピュラー		1	1	1					3	
		声楽		1						1							0	声 楽									0	
		ピアノ		2						2							0	ピアノ									0	
		電子オルガン		1						1							0	電子オルガン									0	
		吹奏楽								0	1						1	吹奏楽									0	
		ジャズ		3		1				4				1			1	ジャズ		1	2						3	
		ギター								0	1						1	ギター									0	
	2 年次計			1	12	0	2	0	0	0	15	3	5	1	2	0	0	0	11	2 年次計		2	4	2	1	1	0	0
全学年合計			3	20	0	10	0	1	2	36	6	12	2	9	0	0	0	29	全学年合計		3	13	2	11	4	1	0	34

図表 42 退学理由割合

	経済的 理由	一身上の 理由	家庭の 事情	進路 変更	病 気	留 学	そ の 他	年度初 在籍数
2002 年度（人）	3	20	0	10	0	1	2	880
在籍者数比（％）	0.3	2.3	0	1.1	0	0.1	0.2	
2003 年度（人）	6	12	2	9	0	0	0	789
在籍者数比（％）	0.8	1.5	0.3	1.1	0	0	0	
2004 年度（人）	3	13	2	11	4	1	0	711
在籍者数比（％）	0.4	1.8	0.3	1.5	0.6	0.1	0	

上段：退学者に対する割合（％）

下段：全在籍者に対する割合（％）

3. 退学、休学、留年等の現状に対する受け止め

退学、休学、留年の現状は図表 40 および図表 41 にまとめたようになっている。専攻によって傾向に違いがあるものの、退学の理由としては、概ね 1 年次に進路を変更した為とする学生が最も多くなっている。本学のように音楽系単科の場合、好きな事が学べることがメリットであり、そのことを目的とし入学して来る学生も多くあると考えられる。しかしながら、その反面において、演奏技術により実力、能力の差が見えやすい分野でもあるといえる。入学後に学習を進めるにつれて、上達を諦めてしまうという場合もあると推測される。

2 年次になると一身上の都合を理由として挙げているものが多くなっているが、この解明は急務であると言える。

本学では音楽的能力に一定のレベル以上のものを求める従来型の入試から、音楽を学ぼうとする意思を尊重する方向へ移行してきている。即ち本人の実技能力のみを評価して受け入れているわけではない。しかしながら入学後の成績評価は従来型つまり、実技能力のみによる評価の単一基準化から脱却していない。この部分にこそ問題があるように思える。この状態を改善するためには、複数の教員による多様な視点からの評価等により、当該学生の可能性を広げる必要がある。そのためには教員全体がまとまった組織体として学生に向き合う必要がある。

第 3 節 資格取得の取組み

1. 取得可能な資格と取得状況

第Ⅱ章第 1 節 3. 取得可能な免許・資格にて記述したが、取得可能な免許は中学校教諭二種免許状（音楽）である。また、短期大学部音楽科の課程修了時には、準学士の称号が授与される。ここでは教育課程に関係なく取得可能な資格について報告する。

図表 43 に中学校教諭二種免許状（音楽）を除いた資格についての取得状況（2004 年度）

を示す(中学校教諭二種免許状(音楽)の取得状況については図表6参照)。音楽指導グレード4、5級については講習を受けた人数は把握できているものの、実際の取得者の把握は行っていない。このことは、講習が学生にとって有意義であったかどうかを判定することを困難にしている。まだ開講間もない資格ということもあり、今後は、取得状況を把握できるように、早急に改善・改革を行なう必要がある。

図表 43 資格取得状況 (2004 年度)

		作曲	声楽	器 楽			音楽	JP	短大 小計	備 考
				ピアノ	管弦打	箏				
パソコン資格 (Word 初級)	取得希望者 (人)	0	1	7	1	0	2		11	
	取 得 者 (人)		1	7	1	0	2		11	
	割 合 (%)		100	100	100		100		100	
パソコン資格 (Excel 初級)	取得希望者 (人)	0	1	1	0	0	1		3	
	取 得 者 (人)		1	1			1		3	
	割 合 (%)		100	100			100		100	
ホームヘル パー 2 級	取得希望者 (人)	0	0	1	0	0	1		2	
	取 得 者 (人)			1			1		2	
	割 合 (%)			100			100		100	
秘書検定 2 級	取得希望者 (人)								0	※ 1
	取 得 者 (人)									
	割 合 (%)									
音楽指導グ レード 5 級	取得希望者 (人)		2	12			1	2	17	※ 2
	取 得 者 (人)									
	割 合 (%)		0	0			0		0	
音楽指導グ レード 4 級	取得希望者 (人)				1				1	
	取 得 者 (人)									
	割 合 (%)				0				0	

(この他に、本学では中学校教諭二種免許状(音楽)も取得可能となっている。図表6参照)

※ 1 : 2005 年度開講

※ 2 : 講習を受けた取得希望者の実数。各人が申し込むので取得者数は把握していない。

JP : ジャズ・ポピュラー

2. 今後導入を検討している免許・資格

2005 年度から導入する取得可能資格として、音楽指導グレード4、5級がある。これらについては、取得状況の把握を行い今後の状況を見守りたいと考えている。

第4節 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価

1. 専門就職（学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）、専門就職先からの卒業生に対する評価についての文書や資料

本学における進路状況（2004年度進路調査集計）については、第V章第4節1. 進路支援の組織体制と就職状況（就職率及び就職先）にて示した。ここでは、音楽系就職、その他就職、進学とに分けて、それら卒業生に対する割合を図表44に示す。

図表44 専門就職先への進路状況（2004年度）

	作曲	声楽	器楽			音楽	短大 合計
			ピアノ	管弦打	箏		
卒業生（人）	6	36	111	59	0	136	348
音楽系就職（人）	1	1	22	2		9	35
%	16.7	2.8	19.8	3.4		6.6	10.1
その他就職（人）		2	16	8		21	47
%	0	5.6	14.4	13.6		15.4	13.5
進学（人）	2	22	35	23		14	96
%	33.3	61.1	31.5	39.0		10.3	27.6
※その他（人）	3	11	38	26		92	170
%	50.0	30.6	34.2	44.1		67.6	48.9

※ 未回答を含む

① 専門就職率の現状

現状においては特定企業への就職という形態をとらず、卒業後も音楽活動を行いながら自己研鑽に励んでいる卒業生の割合が一般大学に比して高いように思われる。演奏活動ないし創作活動などの音楽活動は特定の機関に所属しないで自立している個人事業主、即ち専門就職とも考えられる。しかしながら社会的には厳然としてプロデュースやマネジメントなどの領域においても音楽に関する専門技術を学んだ人材が求められる部分があり、新しい進路の開拓を含め専門就職率の向上は大きな課題である。

② 就職先からの評価

就職先からの評価については、これまで組織的なアンケート調査等に行っていない。本学出身者は音楽指導者として企業系の音楽教室を活動の場としているケースも多く、特にシステマティックに運営される教室等について評価を求めることは今後の教育に対して有益であると考え。また、いわゆる一般就職については情報教室の推進を中心に進めている。

③ 編入先からの評価

ほとんどの編入先が本学に併設される大阪音楽大学音楽学部であるため、編入に際しては厳正な審査を経ており、専門分野は勿論のこと、非専門分野についても優秀な成績を修

め、且つ、学習に対する積極性などについても高いレベルで満たしている者が編入している状態にあり、総じて客観的評価は高いものと思われる。また、編入後も同一キャンパスで学習を継続することにより本学と編入先である音楽学部とは内容的にも常に連携を保っており、効果を上げている。また近年、保育・教育分野等からの編入者推薦依頼がある。

④ 短期大学部全体の現状について

現状においては、進路先からの評価は併設大学以外には組織的には依頼していない。社会性の涵養のために、管弦打専攻学生に対する教員団の対応姿勢がヒントになるのではないかと考える。つまり、日常的に団体の中の一員であることを意識し、個人技能の研磨に励む必要性がある。

2. 学生時代についてのアンケート（卒業後評価）

2005 年度に 1994、1999、2004 年度の 3 ヶ年度に本学を卒業した全専攻生を対象としたアンケートを実施(総数 1458 名)し、本学の教育やサービスについて客観的な意見を聴取した。対象人数は本学同窓会幸楽会名簿にて住所が把握できた 1359 名であり、全体の回収率は 22.4% (305 件)である。このアンケート結果は報告書として 2005 年 9 月にまとめられ、その概要は大学広報紙「Muse」、幸楽会便り、本学ホームページに掲載され広く公表された。本アンケート調査における、総合的満足度は 3.99 (5 段階評価 人数×個点÷有効人数)であった。

この中では専門分野にレッスンや講義・演習科目において大きな満足感を得ており、整った環境や施設・設備が優れていると評価されていることが明らかとなった。また入学前には本学のカリキュラムに大きな期待を持ちながらも、卒業後にはそのカリキュラムのさらなる充実や学生サービスの向上を求める声とともに、就職支援として、在学中に就職への取り組みを促すことや就職情報や資格取得支援など、専門以外の付加価値的なカリキュラムの充実を求める声が多かった。

卒業後の進路としては「進学 (30%)」、「就職 (24%)」、「教育 (23%)」となっており、「演奏 (8%)」となっている。卒業後職業的に演奏家となった者は 1 割に満たない。これを多いと見るか少ないと見るかは難しいところであるが、本学のみならず日本の音楽大学共通の分析・研究課題である。また、卒業年度別に見ると卒業から間もないものは 60%以上がいわゆる安定した就職をしておらず、自主的な音楽活動が続けている層があることに加え、20%強がアルバイトなどを続けながら社会での立場を模索している状態である。

3. 教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携及び社会から卒業生に対する評価

① 卒業生（同窓会）との接触・連携について

本学の同窓会は「幸楽会」という名称をもち、組織的に運営されている。

1947 (昭和 22) 年 4 月 1 日に大阪音楽学校同窓会が発足し、1961 (昭和 36) 年 8 月 26 日同窓会の正式名称を「幸楽会」とした。会長は初代に永野秀二郎氏、ついで、木村四郎氏、野口幸助氏、永井 譲氏 (現会長) が歴任している。この幸楽会は学生の納付金で運

営されている。幸楽会という名称は本学の創設者永井幸次にちなんだものである。全国に置く支部は関東、富山県、石川県、福井県、岐阜県、奈良県、京都中丹、和歌山県、姫路、鳥取県、岡山県、広島、広島県東部、徳島、愛媛県、大分、熊本、北海道、沖縄、ドイツ、フランスに拡大しており、これらの支部を通じ卒業生との連絡を蜜に取っている。

卒業生の消息を把握するため、1951（昭和 26）年、味原時代の会員を対象とした会員名簿の作成にかかり、昭和 27 年 8 月 25 日第 1 号を刊行した。当時の会員数は 568 人であったが、2005 年現在会員数約 31,457（昭和 29 年以降短大卒は 19,386）人である。

幸楽会の主な業務としては会員名簿管理、広報誌発行（年 1 回）、幸楽会コンサートや推薦演奏会の開催、会員のリサイクルやコンサートへの援助、総会と親睦パーティー、幸楽会会員証の発行、母校ならびに在学生・卒業生への援助、地方支部の催し物を主催・後援するなどの活動援助である。

「幸楽会コンサート」は同窓会研究発表会として昭和 31 年 12 月に発足したもので、卒業間際の若手会員にとっては音楽界への登竜門となっている。また、会員が指導する児童・学生による「推薦演奏会」は昭和 28 年に始まる。毎回、百人を超す小、中、高校生が出演して音楽評論家、演奏家の審査を受け、優秀演奏者には賞を贈呈している。

充実した幸楽会名簿を利用し、年 1 回発行される同窓会誌「幸楽会便り」のほか、本学法人全体の広報誌である「Muse」を通じて卒業生の動向や幸楽会からの通信をはじめ、法人全体の動きや付属機関の情報を発信している。

しかし、具体的な体制としては、これまで教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等が円滑に行えているとは言い難い。ただし、同窓会の役員は同窓会の事務局が本学内にあることもあり、ほとんどが現役の本学教職員（大学も含む）であるため、いくつかの連携がとられている。特徴的なものとしては、音楽の初歩指導から本学入学までに必要な音楽経験の場として、本学の卒業生の多くが指導者として広く関わり、これら卒業生の紹介によって多くの入学者を獲得している。

また、同窓会主催の卒業生による演奏会、および卒業生の指導した生徒の推薦演奏会などは大学の施設を利用して行われる。また、それまで在阪ホテル等を利用して行っていた同窓会総会を 2004 年には「ホームカミングデー」として、本学のザ・カレッジ・オペラハウスや学生サロン「ばうぜ」などを利用した大規模な催しとして行った。これを通して本学の今の姿を多くの卒業生に見てもらい、本学に対する理解を深め、将来的に具体的な連携の可能性を図る道筋としている。

② 卒業生に対する社会からの評価

卒業生の社会的評価はかなりばらつきがあるようである。音楽に関する知識に大きな差があり、秀でた学生の中には、大学卒に勝るとも劣らぬ力量や知識を備えた者もいるという。また、全体的には素直で率直であると言われているようである。本学としてはこのような音楽能力に特定した評価のみでなく、卒業生が関わっているであろう地域社会の中での位置や活動などに対する評価は積極的に求めていかなければならない。これには多様性を崩さず、学生個々の可能性を引き出す教育システムが必要でありこれを展開し評価すべく、様々な委員会やプロジェクトで検討を続けている。

